

第16号

奈良 国立博物館 だより

平成8年 1・2・3月



〔写真解説〕

だいこくてんりゅうどう

木造大黒天立像（当館蔵）

鎌倉時代 13世紀 像高56.3cm

大黒天は寺院の守護神として、その食厨や倉庫などに祀られ、祈願に応じて種々の財福を施すとされる。本像はヒノキ材寄木造の像で、目には玉眼を入れる。「走り大黒」という動きのある像容で、滋賀園城寺や日光中禅寺にも同系の像が伝存している。鎌倉彫刻らしい生彩に富んだ表現である。

特別陳列

「経塚出土陶磁展2

中部地方に埋納されたやきもの」

平常展「仏教美術の名品」

1月4日(木)～2月4日(日)

2月14日(水)～

月曜日休館

〔1月15日(月)・16日(火)は開館〕

午前9時～午後4時30分

(入館は4時まで)

本 館

本 館

1月4日(木)～2月4日(日)

月曜日休館

〔1月15日(月)・16日(火)は開館〕

午前9時～午後4時30分

(入館は4時まで)

本 館

特別陳列

「経塚出土陶磁展2 中部地方に埋納されたやきもの」

1月4日(木)～2月4日(日) 本館

この特別陳列は、昨年の「経塚出土陶磁展 畿内に埋納されたやきもの」に引き続くものです。今回は岐阜、愛知、静岡、山梨、長野の中部地方五県下から出土した平安時代から鎌倉時代の陶磁製の経容器類に焦点をあわせ、年代の明らかな作例とそれに準ずる重要な遺物を集め、関連する経典や経筒なども展示して、それらの地域の特徴や変遷を紹介します。これらの陶磁器類の中には東海地方の古窯で焼成された常滑、渥美、湖西などの優品が含まれ、観賞陶器としても魅力的で、陶磁史上、重要な意味を持っているものが少なくありません。

なお、この特別陳列は今後、北陸、関東、東北の東日本や中国、四国、九州の西日本出土品についても、同主旨の企画を予定しています。

〈主な出陳品〉

《岐阜》南宮山経塚出土品（南宮大社）、養老神社経塚出土品（養老神社）、桜堂経塚出土品（東京国立博物館）、《愛知》観音山経塚出土品、◎普門寺経塚出土品（普門寺）、鏡岩下経塚出土品（鳳来寺）、《静岡》◎五輪塔形経筒外容器（愛知県陶磁資料館）、石室寺経塚出土遺物、小国神社経塚出土品（小国神社）、千鳥道経塚出土品（東京国立博物館）、香貫山経塚出土品（東京国立博物館）、三明寺経塚出土品（東京国立博物館）、伊豆山経塚出土品（伊豆山神社）、《山梨》◎柏尾山経塚出土品（東京国立博物館）、大善寺経塚出土品（東京国立博物館）、雲峰経塚出土品（東京国立博物館）、《長野》伝長野・中村経塚出土品（愛知県陶磁資料館）、伝長野県出土四耳壺（愛知県陶磁資料館）



◎普門寺経塚出土陶製経筒外容器（普門寺）



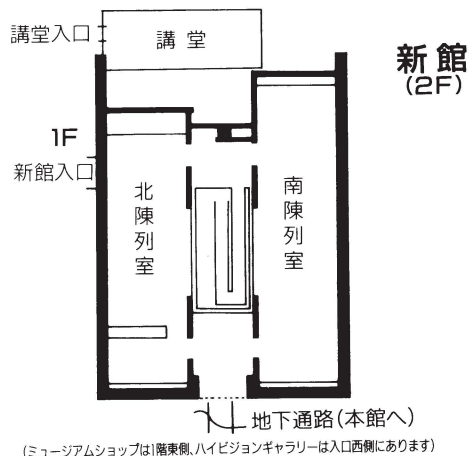
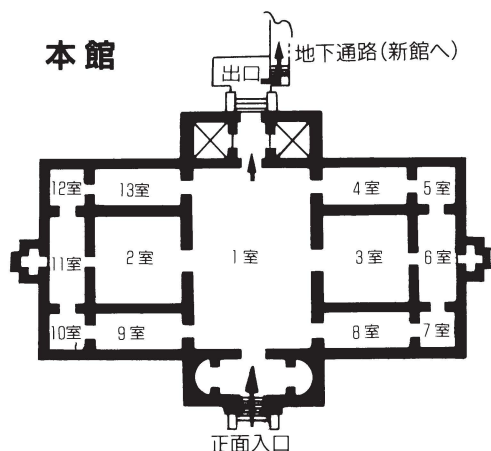
香貫山経塚出土陶製甕（東京国立博物館）

平常展「仏教美術の名品」

1月4日(木)～2月4日(日) 本館

2月14日(木)～ 本館

当館では、わが国の仏教美術に関する多くの文化財を収蔵・保管していますが、平常展ではそうした館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示します。仏教が伝来した飛鳥時代から連綿と続く多彩な美術を、各種の仏像の時代別展示と、寺院出土の遺物や瓦、経塚遺物など、彫刻と考古部門において紹介します。



主な展示品

本館	
彫刻	考古
1月4日(木)～ 〔1室〕◎銅造誕生釈迦仏像（正眼寺）、◎銅造弥勒菩薩半跏像（神野寺）、◎銅造観音菩薩立像（法起寺）、◎銅造観音菩薩立像（金剛寺）、◎銅造誕生釈迦仏像（悟真寺）、●乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連像（興福寺）、●乾漆八部衆立像のうち緊那羅像（興福寺）、●木心乾漆義淵僧正坐像（岡寺）、◎木造西大門勅額（東大寺）、◎木心乾漆阿閼如来坐像（西大寺）、◎木造十一面観音立像（地福寺）、●木造薬師如来立像（元興寺）、◎木造十一面観音立像（勝林寺）、◎木造日羅立像（橘寺）、◎木造十一面観音立像（当館）、◎木造十一面観音立像（海住山寺）、◎木造弥勒仏坐像（東大寺）、●木造法相六祖坐像のうち行賀像（興福寺）、◎木造多聞天立像（当館）、◎木造広目天立像（興福寺）、◎木造千手観音立像（妙法院）〔2室〕◎木造如意輪観音坐像（当館）、◎木造阿弥陀如来坐像（当麻寺）、◎木造金剛力士立像（財賀寺）、◎木造十二神将立像（東大寺）	1月4日(木)～2月4日(日) 〔4室〕経塚遺物、銅経筒・陶製外筒、和歌山・粉河経塚遺物、福島・木幡山経塚遺物(以上当館)、◎金峯山経塚出土鍍銀経箱（金峯神社）、◎藤原道長願経（金峯神社）、◎和歌山・王子神社経塚出土紙本墨書法華経（王子神社）、伝大分県出土紙本朱書法華経（当館）、◎銅板法華経（長安寺）、福岡・飯盛山出土瓦経、◎蔵王権現鏡像（金峯山寺）、金銅水滴、銅合子、青白磁合子・壺、金銅火舎、金銅高杯、金銅六器〔5室〕◎伝福岡県出土経塚遺物、◎伝福岡県出土銅経筒・滑石外筒、◎石製弥勒如来坐像（以上当館） 特別陳列〔3・6・7・8室〕 「経塚出土陶磁展2 中部地方に埋納されたやきもの」
2月5日(月)～13日(火) 陳列替および改修工事のため休館	
寺）、●木造板彫十二神将像のうち二面（興福寺）、◎木造阿弥陀如来坐像（東大寺）、木造地藏・竜樹菩薩坐像（当館）〔9室〕木造弥勒菩薩立像（林小路町）、◎木造地藏菩薩立像（東大寺）、◎木造地藏菩薩立像（長命寺）、◎木造地藏菩薩立像（春覚寺）、◎木造愛染明王坐像（当館）、◎木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）、◎木造釈迦如来坐像（東大寺）、木造如意輪観音坐像（当館）、木造大黒天立像（当館）〈写真〉、木造四天王立像（霊山寺）、〔10室〕銅造不動明王立像（天ヶ瀬組）、◎木造閻魔王倚像（金剛山寺）、◎木造聖徳太子立像（成福寺）、◎銅造阿弥陀如来立像（善光寺）〔11室〕◎木造伎楽面（東大寺）、◎木造舞楽面（手向山神社）〔12室〕◎木造行道面（浄土寺）〔13室〕◎銅造蔵王権現立像（大峰山寺）、◎木造化仏・飛天（興福寺）	2月14日(火)～ 〔4室〕百済出土古瓦、高句麗出土古瓦（当館）、法隆寺出土古瓦（法隆寺）、平隆寺出土古瓦、向原寺出土古瓦（橿考研附属博）、御所市上増出土古瓦、巨勢寺出土古瓦、中宮寺出土古瓦（中宮寺）、巨勢寺出土古瓦、山田寺出土古瓦（奈文研・橿考研附属博）、紀寺出土古瓦（当館）、法隆寺出土古瓦（法隆寺）、山村廃寺出土古瓦（当館）、慈光寺出土古瓦（火雷神社）、本薬師寺出土古瓦（当館）、松隈寺出土古瓦（当館）、大官大寺出土古瓦（奈良女子大・当館）、興福寺出土古瓦（当館）、平城宮跡出土古瓦（当館）、東大寺出土古瓦（当館）、唐招提寺出土古瓦（唐招提寺）、秋篠寺出土古瓦（秋篠寺）〔5室〕奥山久米寺出土蓮華文鬼瓦（京博）、薬師寺出土鬼神文鬼瓦（京博）、◎大安寺出土鬼面文鬼瓦、中山瓦窯出土鬼面文鬼瓦（当館）、秋篠寺出土鬼面文鬼瓦、和歌山・上野廃寺出土隈木蓋瓦（当館）、山田寺出土極先瓦（当館）、大阪・新堂廃寺出土極先瓦（大阪府教委）、檜池廃寺出土極先瓦〔6室東〕橘寺出土方形三尊埴仏（当館）、川原寺裏山出土方形三尊埴仏（明日香村）、南法華寺出土方形三尊埴仏（南法華寺）、◎三重・天花寺出土方形三尊埴仏（当館）、三重・夏見廃寺出土埴仏（当館）、山田寺出土埴仏（当館）〔3室〕◎鳳凰埴（南法華寺）、川原寺裏山出土緑釉埴（明日香村）、●東大寺金堂鎮壇具（東大寺）、◎元興寺五重塔鎮壇具（元興寺）、川原寺裏山出土塑像頭部（明日香村）、本薬師寺出土塑像頭部（薬師寺）、滋賀・雪野寺出土塑像断片、◎石製九輪附金銅風鐸（円証寺）、和歌山・上野廃寺出土金銅風鐸（当館）、●粟原寺伏鉢（談山神社）〔6室西〕◎佐井寺僧道薬墓誌及骨壺（当館）、山代忌寸真作及妻墓誌（当館）、○行基舍利瓶断片（当館）、◎出雲荻村古基出土品（当館）、◎青磁鉢附瓦製鉢（正暦寺）〔7室〕◎金峯山経塚出土鍍銀経箱（金峯神社）、◎三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品（金剛証寺）、瑠璃鈕銅宝幢形経筒（当館）、飛鳥文陶製外筒（当館）、○東京・松蓮寺経塚出土銅経筒（長寛元年銘）（当館）、同銅経筒（永万元年銘）、同銅経筒（建久四年銘）（当館）〔8室〕◎藤原道長願経（金峯神社）、◎和歌山・王子神社経塚出土紙本墨書法華経（王子神社）、◎銅板法華経（長安寺）、福岡・飯盛山経塚出土瓦経（当館）、◎石製弥勒如来坐像（当館）、◎伝福岡県出土経塚遺物（当館）、◎伝福岡県出土銅経筒・滑石外筒（当館）ほか
	
木造弥勒菩薩立像（奈良 林小路町）	

●国宝、◎重要文化財。 展示品は都合により一部変更する場合があります。新館は改修工事のため休館いたします。

きょうづか
経塚 Q&A

Q：「経塚」とは何ですか？

A：経塚は、お経を容器に納め地下に埋めた仏教遺跡です。仏教では、釈迦（釈尊）が亡くなったあと、弥勒菩薩が56億7千万年後に第二の釈迦としてこの世に出現するまで、正法・像法・末法の時代の順にしないで仏教が衰退し、とくに末法の世を迎えると教えが廃れ、悪がはびこり、その後は長い暗黒と混乱の時代がくると考えられていました。わが国では、永承7年(1052)が末法の初年に当たるとされたため、貴族をはじめ多くの人々は、経典がこの世から滅亡してしまうのを恐れ、弥勒の再生のときまで地下に埋納して保存しようと考えました。これが経塚で、いわばお経のタイムカプセルです。

経塚の造営は、10世紀の終わりに発生し、各時代を通じて行われています。藤原道長が寛弘4年（1007）に奈良の金峯山山頂に埋納した例が最古といわれ、のち全国に波及し、各地の経塚遺構から遺物が出土しています。

Q：「経塚」はどのようにつくられるのですか？

A：経塚の多くは、寺院や神社の境内や墓辺またはその周縁にあり、概して高く神聖な地が選ばれます。一般に築造する場合には、深さ約1メートルの土壌を掘り、その中に石や平瓦を用いて石櫛（石室）をつくります。そこへ外筒（外容器）を据え、経典の納入された経筒を納め、外筒の蓋をかぶせ、石櫛も蓋石で覆い、その上に栗石を積み上げ、さらに封土を盛りあげます。そして表面に葺石を施し、経塚の周縁に垣石をめぐらせます。こうして直径4メートル前後の小丘状の経塚ができあがります〈図1〉。

Q：「経塚」に埋納されるお経はどのようなものですか？

A：埋納するための経典は、『法華経』が中心で、厳重な精進潔斎をして書写されました。これは

慈覚大師円仁が比叡山横川で『法華経』を書写し、四種三昧という厳しい修行を行い、そのお経を小塔におさめて如法堂というお堂の中に安置したという由来に基づいています。天台系の寺院と密接な関係がある経塚が多いのはこのためです。

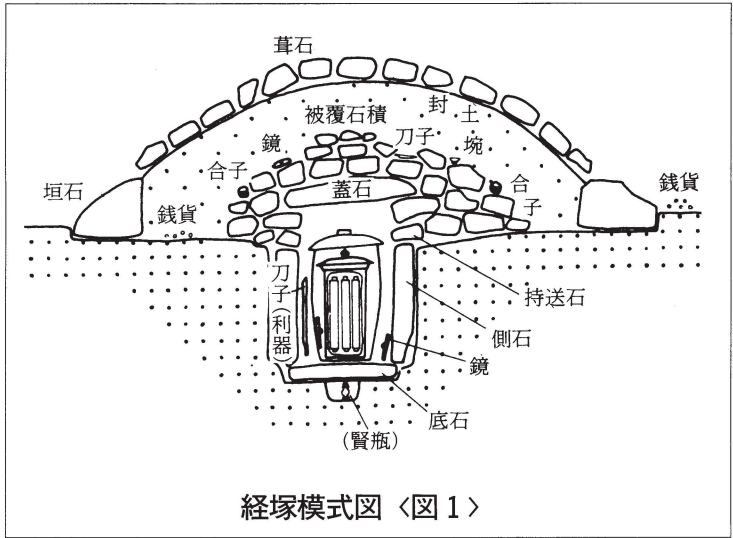
出土する経典は、紙本経（紙に書いたもの）が大部分を占めるのはいうまでもありませんが、このほかに瓦経（粘土板に経文を彫って焼いたもの）、銅板経（薄い銅板に経文を刻したもの）、貝殻経（貝殻に書いたもの）などがあり、江戸時代には礫石経（石ころに書いたもの）が多く見られます。

Q：経筒や副納品にはどのようなものがあるのですか？

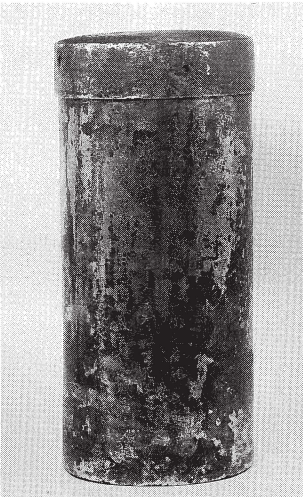
A：お経を納める容器には、経筒・経箱類と外筒（経筒外容器）があり、経筒の大半は銅製品で、形状は円筒形のほか六角筒形、八角筒形などが見られ、平板か笠形のふたが付きます。特殊な例としては、宝塔や仏像の形にかたどったものもあり、蓋に相輪形のつまみや火炎宝珠をつけたものやガラスなどで飾った例もあります。

また経典・経容器とともに副納品も埋納されます。副納品の納入場所は、経筒や外容器の中を含めて石櫛内部と、蓋石上の石積みおよびその周囲で、前者には鏡、刀剣・刀子（小刀）といった利器など経典を守護する意味をもたせたものが多く、後者は、鏡・利器・貨銭や合子・椀・皿をはじめ多様です。また鋳銅製の仏像や仏具を埋納した例も見られます。

なお、最古の経塚遺物は、藤原道長が寛弘4年（1007）に奈良の金峯山山頂に埋納した例で、それらは元禄4年（1691）に発掘、金銅製の見事な経筒〈写真〉に納められた長徳4年（998）の奥書のある紺紙金字経が発見されています。



経塚模式図 〈図1〉



●藤原道長経筒（金峯神社）

奈良国立博物館の世紀

館長 内田 弘保

本年、奈良国立博物館は開館百一年を迎える。

明治28年（1895）に設置されて、昨年は百年目に当たったので、記念式典を挙行し、百年記念特別展「日本仏教美術名宝展」などを開催した。したがって本年は新しい世紀に入るわけで、当館のいっそうの充実と発展のために、われわれは新たな決意と不断の努力を惜しまないつもりである。

当館の世紀の構想を四つの面から考えてみたいと思う。この中には、現在鋭意検討中のものや、また期待や希望も含まれていることをあらかじめご了承ください。

・まず第一に施設・設備の拡充である。

施設については、新館の増設工事が平成5年度の第二次補正予算で認められ、6年秋から建設に着手した。現在、工事は着々と進行中であり、平成10年3月の完成を目指している。

この施設が実現すると、まず展示スペースが新館については既設の部分とあわせて、現在の一・七倍となり、通常展示や企画展示が円滑に行われるとともに、来館する人々にもゆったりとした気持ちで展示品を鑑賞できるようになる。さらに春の特別展や秋の正倉院展の際の混雑も多少とも緩和できるものと期待している。

収蔵庫や調査・研究などの施設も格段に充実される。

さらに学習施設と講堂などが設置される。特にこれらの施設は、来館者がさらに知識を深め、また自主的に学習したいという場合、その意欲に応え、博物館が単なる展示の場でないために、きわめて重要な施設になると考えている。

増設された新館は既存の本館と合わせて、全体として博物館の機能が十分に発揮できるように総合的、有機的に活用できるようにしたい。

・第二に周辺環境整備である。

古都奈良のすばらしい環境の中に位置する当館は広い構内と美しい庭園、樹木、池などをもち、全国でも最も恵まれた周辺環境を持つ博物館の一つであろう。鹿が遊び、人々が自由に散策できる空間はきわめて貴重なものである。新館の増設と合わせて、博物館の周辺の整備も進めている。

現在の新館の北側の池に隔てた辺りに、地下のラウンジを作る計画を進めている。そこにはミュージアム・ショップや軽食堂などが設けられる予定である。来館者が記念品や参考書を購入したり、憩い休息する場所となるだろう。

新館の南側にある庭園や茶室「八窓庵」、さらには現在仏教美術資料研究センターとなっている重要文化財「奈良物産陳列所」と合わせて、奈良の地にふさわしい周辺環境を整備してゆくことになっている。

・第三に展示活動の展開である。

博物館にとって展示事業がもっとも重要な仕事であることは言うまでもない。新しい世紀において当館がどのような展示活動を展開すべきか、いま真剣な検討が進められている。

当館が我が国における仏教美術の展示、調査、研究の中核センターとして重要な役割を果たしていることは多くの方々に認めていただいている。しかし同時に、これらの展示品が生まれた時代の社会、風俗、信仰、芸術などとの関連を明らかにし、さらには国内的、国際的な状況なども示すことは、展示品の鑑賞に役立つばかりでなく、幅広く文化を理解することに寄与するであろう。

このために、展示内容と展示方法について、さらに改善・充実を図ってゆく必要がある。

特に、奈良を訪れる若い人々が古い文化財に親しみ、古い伝統を理解しようとする時、事前には当館の展示や講演によって基本的な概念や見方を学ぶ場として、事後には疑問点を質し、印象を整理して正確な認識を深める場として、当館を十二分に活用していただきたいと考えている。

・第四に有志の方々の支援・参加である。

奈良の文化や歴史について豊富な知識、経験を持っておられる方々が多く居られるはずである。これらの方々に、当館の活動に積極的に支援・参加していただけるようなシステムを早急に作ることを検討している。

まず教職や文化活動などに従事していた、あるいはしている方々で、美術や歴史に興味を持っている方々に、ボランティアとして、当館の展示解説や事業の実施について協力をお願いすることである。近ごろ宝物の前を素通りする、特に子供たちがどんなに多いことか。これらの方々の協力によって、この貴重な機会を彼らの永く忘れられない記憶とするために、ご尽力頂ければと思っている。

次に「友の会」会員の拡大である。当館の「友の会」には現在1883名の方々の登録を頂いているが、さらに多くの人々の参加が望まれる。また「友の会」の自主的な活動によって、当館の事業と奈良の文化、歴史がより広く理解され、より親しいものとなることが期待される。

以上、当館の将来構想の四つの面についてご説明したが、この機会に、当館が新しい世紀に向けて、さらに活発な事業を展開できるよう、大方のご支援、ご協力をお願いしたい。

新春講座

1月13日(土)「福を招く神と仏」

学芸課長 河原 由雄

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

公開講座

1月27日(土)「中部地方の経塚とやきもの」

東海大学教授 関 秀夫

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

ギャラリートーク

1月10日(水)「経塚出土の陶磁器」

考古室長 井口 喜晴

3月13日(水)「当麻寺宝冠阿弥陀如来坐像について」

主任研究官 井上 一穂

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。

親と子の文化財教室

平成7年度〈平安時代の歴史と美術〉

主催・当館 後援・奈良県教育委員会

1月13日(土)「経塚 平安時代のタイムカプセル」

考古室長 井口 喜晴

〈対象〉小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。〈時間〉午前10時から12時。〈場所〉当館講堂・展示室。

〈定員〉50名(先着順)。〈参加費〉無料(入館料とも)。〈申込方法〉往復はがき(または電話)で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、

〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係 ☎0742-22-7771までお申し込み下さい。

奈良国立博物館友の会 平成8年度会員募集

平成8年度の友の会会員を募集いたします。会員には、会員証を発行し、東京・京都・奈良の国立博物館の平常展・常設展が観覧できます。(ただし特別展等の際には制限することがあります。)また当館発行の展覧会目録が割引購入できるなどの特典があります。

〈会費〉一般1,700円、学生1,100円。〈申込受付〉3月4日から5日間。

詳しい募集要項・申込方法及び申込用紙は展示室入口の受付に用意してあります。または「友の会要項希望」と明記の上、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記のこと)を同封して、

〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 友の会係まで御請求ください。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料。

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	400	130	70
	団体	200	70	40

(団体は責任者が引率する20名以上。)

特別陳列「経塚出土陶磁展2 中部地方に埋納されたやきもの」は上記料金で観覧できます。

無料観覧日 1月15日(月)、2月3日(土)、3月12日(火)

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館